

震災アーカイブの利活用

●第3回検討委員会で頂いたご意見

〔全体的な視点に関するご意見〕

- ・ 物に対する記憶や、人の思いがアーカイブされないと後世に伝わらない
- ・ 記録したうえで、記録を何らかの形で定義づけることが必要
- ・ 時間の経過とともに変わる被害状況を記録に残す取組
- ・ 時間の経過とともに辛いことも話せるようになると思うので、長期間のプロジェクトがつかれないか
→ 資料 P.4 に“震災アーカイブに関する平成 26 年度の取り組み案”を記載

〔拠点に関するご意見〕

- ・ 100 年後に伝えるためには、常駐のスタッフがいて、いつでも写真や映像が収集でき、いつでも話が聞ける場所が必要
- ・ 伝える場・感じたものを置いておく場所が必要
- ・ 遺構が見える場所の近くにアーカイブがあると有効
→ 資料 P.5 に“震災アーカイブの拠点整備に関する平成 26 年度の取り組み案”を記載

〔仕組みに関するご意見〕

- ・ フィクションには事実以上に大きなインパクトを持って迫る力があるので、集めて、参照できるようにしておくことが重要
- ・ 域外の方への発信方法の検討
- ・ その都度ふさわしい形の見せ方、示し方を考えていくような仕組み
→ 資料 P.3 「目的実現に向けた取組例」に“整備にあたっての視点”を設定
- ・ 共有できるシステム、写真などのデータを自由に使える仕組み
→ 資料 P.2 「現在進められている取組」に“宮城県被災地域記録デジタル化推進事業”を追加

震災アーカイブの利活用

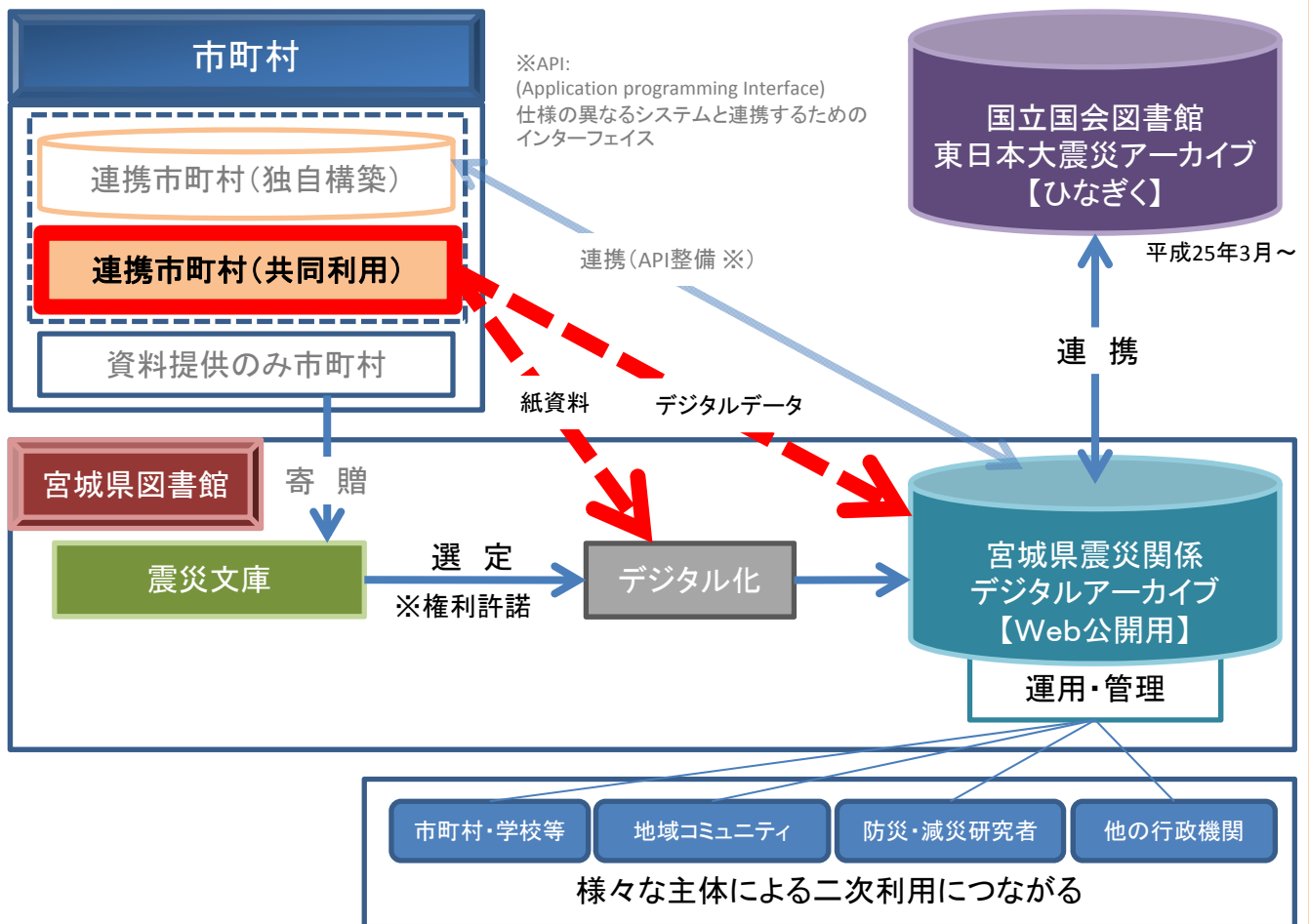
■現在進められている取組

【宮城県被災地域記録デジタル化推進事業】

- ・ 県内市町村との連携により、震災関連資料の収集を強化し、それらの資料をデジタル化するとともに、蓄積されたデータをWeb上で公開するシステムを構築し、東日本大震災に関する記憶の風化を防ぐとともに、防災・減災対策や防災教育等に幅広く活用できるようにする

実施主体：宮城県及び連携市町村

被災地域記録デジタル化推進事業イメージ図



○震災関連資料デジタル化

- ・ 震災関連資料の適切な保存や、効果的な利活用の促進を図るため、県及び連携市町村が収集、整理した震災関連資料のほか、県の震災文庫に寄贈された資料についてデジタル化する。

○震災関連資料活用のためのシステム構築

- ・ 震災の記憶の風化防止や、今後の防災・減災対策など様々な主体による二次活用などにつながるため、デジタル化した震災関連資料をインターネットで公開するとともに、蓄積された資料の運用・管理等を行うためのシステムを構築する。

○スケジュール

- ・ 平成27年4月から本格運用予定

震災アーカイブの利活用

■震災アーカイブ整備の目的

東日本大震災により失われた暮らしや文化、人々の思いを留めるとともに、復興に立ち向かう思いや、震災により得た教訓を後世に継承し、次の災害に備えるため、震災アーカイブを整備する。

■分野別利活用

分野	記憶の継承	防災意識の醸成	防災・減災
利活用イメージ	震災の脅威や復興過程、失われた集落の暮らしや文化等を後世に伝えるためのツール	自助・共助による個人及び地域防災力の向上を図るためのツール	次に起こりうる災害(地震・津波)に備えるためのツール

■目的実現に向けた取り組み例

整備にあたっての視点 利活用分野	①幅広い市民の関わりを得ること	②市域内だけでなく市域外への発信を図ること	③他分野との連携による取り組み
記憶の継承 震災の脅威や復興過程、失われた集落の暮らしや文化等を後世に伝えるためのツール	失われた集落の歴史や震災の脅威を、市民と共に収集・保存に取り組む。	東日本大震災から得た教訓を広く国内外に発信することにより、次の災害への備えに取り組むとともに思いの共有を図る。	写真や映像などのデジタルコンテンツと他の分野との連携により相乗効果を図る。
防災意識の醸成 自助・共助による個人及び地域防災力の向上を図るためのツール	<ul style="list-style-type: none"> 被災前の暮らしや文化の継承 震災(津波)の脅威の継承 オーラルヒストリーによる震災や暮らしの記録の掘り起し 地域に伝わる行事の継承 視察や見学・体験ツアー、研修、校外学習等を受け入れる体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを活用した発信 多様なイベントの開催 域外からの視察や見学・体験ツアー、研修、修学旅行等を受け入れる体制の整備 市域内の文化施設(戦災復興記念館、メディアテーク(図書館含む)、博物館、歴史民俗資料館、など)との連携 デジタルコンテンツの二次利用フリー化 多言語による発信 	<ul style="list-style-type: none"> 荒浜小学校や周辺集落基礎群などの遺構との連携 フィクション(映画・書籍)との連携 語り部との連携による記憶の継承
防災・減災 次に起こりうる災害(地震・津波)に備えるためのツール	<ul style="list-style-type: none"> 自助・共助の取組につなげるための資料の収集 地域の防災訓練の充実 学校における防災教育の充実 地域と学校が一体となった防災教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを活用した発信 シンポジウムなど多様なイベントの開催 視察や見学・体験ツアー、研修、修学旅行等を受け入れる体制の整備 多言語による発信 	<ul style="list-style-type: none"> 語り部との連携による防災意識の醸成 総合学習の活用 消防部局との連携
	<ul style="list-style-type: none"> 防災・減災に関する文献の収集 地域防災リーダーの育成 防災コーディネーターの育成 人材データベースの構築 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを活用した発信 防災講演会、防災パネル展など多様なイベントの開催 テレビ・ラジオ、ホームページによる広報、市地震防災アドバイザー・地域地震防災アドバイザーによる広報 多言語による発信 	<ul style="list-style-type: none"> 総合学習の活用 消防部局との連携

■これまでの本市の主な取組み

- 仙台市震災復興記録誌の発行
- 3がつ11にちをわすれないためにセンターの開設
- 3.11震災文庫の設置
- 伝える学校の開校
- 「東日本大震災 1年の記録 とともに前へ仙台」の発行
- フォトアーカイブ「東日本大震災－仙台復興のキセキ」の開設

■第3回検討委員会でのご意見

- 物に対する記憶や、人の思いがアーカイブされないと後世に伝わらない
- 記録したうえで、記憶を何らかの形で定義づけることが必要
- 時間の経過とともに変わる被害状況を記録に残す取組み
- 時間の経過とともに辛いことも話せるようになっていくので長期間のプロジェクトがつかれないか

■平成26年度の震災アーカイブに関する取組み案

◆主旨

東日本大震災からの復興には、行政だけではなく、多くの市民をはじめ、全国からのボランティアや民間企業のご協力をいただいております。これら多くの方たちの被災体験や復興にかける思いなどを伺いながら広く集約し、後世に伝える取組みを行います。

◆具体的な検討内容(案)

1 後世に伝えるべき項目

- 被災体験談
- 復興への思い
- 3.11の過ごし方 など

2 収集方法

- ・被災体験談など、市民の方から直接聞き取る手法を市民協働型の取組みとしての実施を検討します。
- ・広く市民を対象として募集していきたいと考えておりますので、インターネットやEメール等を活用した仕組みや、広報紙(市政だより)などを活用し、インターネット環境のない方もからも募集する仕組みも検討します。
- ・既存の取組との連携を検討します。

3 発信手法

- ・いただいた内容は、デジタル化のうえ、震災アーカイブとして集約し、広く国内外に発信するとともに、冊子化の検討を行います。



この取組みを関係する他の取組みと連携していくことにより、時間の経過とともに移りゆく気持ちの変化を末永く記録・保存します。

■市内にあるアーカイブ発信施設



戦災復興記念館



せんだいメディアテーク



博物館



歴史民俗資料館

■第3回検討委員会でのご意見

- ・ 100年後まで伝えるためには、常駐のスタッフがいて、いつでも写真や映像が収集でき、いつでも話が聞ける場所が必要
- ・ 伝える場・感じたものを置いておく場所が必要
- ・ 遺構が見える場所の近くにアーカイブがあると有効

■平成26年度の震災アーカイブに関する取り組み案

◆主旨

東日本大震災により失われた暮らしや文化、復興に立ち向かう思いなどの記録を収集・発信を継続的に行うため、アーカイブの拠点整備の検討に取り組みます。

◆具体的な検討内容(案)

1 拠点に求められる機能

- ・ 震災アーカイブの受付窓口
- ・ 震災アーカイブの閲覧機能
- ・ 各種資料などの展示
- ・ 記憶の継承、防災意識の醸成、防災・減災に資する多様なイベントの企画・開催
- ※ 市民活動との役割分担

2 拠点の確保の考え方

- ・ 交通アクセスや施設配置を考慮し、新設だけでなく既存施設のスペースの活用を検討

3 遺構との連携

- ・ 遺構として保存を検討している「荒浜小学校校舎」などとの連携について検討

